批評と紹介

加島潤

本書は、中国の華北平圏、河北省は饒陽県に位置する五村という一村を対象として社会主義体制下における五村の実態を幅広く描いだものである。前著が主に中戦期における五村での互助組の形成を、中華人民共和国成立後の土地改革、農業集団化、大躍進を含む一九六〇年代初頭までを対象としていたのに対し、本書はその続きに当たる一九六〇年代から文化大革命、改革開放、天安門事件をへたおおよそ二〇〇〇年まで含むまでを対象としている。本書は五村における農村の実態を通覧することができるわけである。

本書の内容は五村の歴史を縦横に描き、五村の住民が経験した社会変革を詳細に描き出してある。本書の内容は五村の歴史を縦横に描き、五村の住民が経験した社会変革を詳細に描き出してある。本書の中心となるのは五村の指導者・五村民主の活動においても描かれていく。それらは政治闘争の時代をへて改革の時代へと向かっていく。それらに影響されて五村の歴史を描き、五村の住民が経験した社会変革を詳細に描き出してある。
モデル村研究としての意義

まず挙げられるのは本読のモデル村研究としての意義である。前著に関する佐藤宏の書評は、その最大の特徴としてある。本書の読者に示すように、本書の豊かな内容から評価の関心にとどまらない新たな論点を提示するという形をとった。

Ⅰ モデル村研究としての意義

これまで述べたように、本書の特徴はこうしたモデル村をめぐる重層的な権力関係の発生、構造の視点で、重層的な権力関係を明確に視野に入れる点にある。北村がモデル村を政治モデルとし、その特性、特に上級権力の流れを特徴として利用しようとする上級指導者林村倫限らず、河北省の農業労働模範省長の劉子厚も、そのような状況を明確に表している。北村がモデル村を政治モデルとし、その特性、特に上級権力の流れを特徴として利用しようとする上級指導者林村倫限らず、河北省の農業労働模範省長の劉子厚も、そのような状況を明確に表している。

なお、この本は政治学、社会学、経済学等、多角的な視点からモデル村を対象に考察されている。
の後、林鉄は一九七〇年代初頭の改革の機運のなかで一九七三年末に復活し、再びかつての政治資源であった五公に接近していったが、そ のことが完全に名目だけの回復であるだけで、実質的には再び林と手を結び、五公は一九七八年に降権をとったのである。このエピソードは上級権力とモデル村の関係、それらの生活戦略と相互関係を如実に示 しており、変動する政治的環境のなかでこそ地方指導者の危機回避能力が試されるのであった。

Ⅱ 村とリーダー——五公村と耿長鎮

上述のモデル村としての五公のあり方と関連して、モデ ル村とリーダーの関係についても興味深い論点が示されて いる。すでに考えように、モデル村と上級権力の関係にお いては特定の上級指導者とモデル村とのつながりが重要 であるが、五公村の場合は指導者、耿長鎮が強いリーダーシッ プを持っている。五公村とのネットワークの窓口として機能してい た。一方で、県と村の関係についてはもまた重要な役割を果た げ、耿長鎮がこうした村外の社会活動を通じて村内のネットワークを広げ、絶えず動いて政治的資源に柔軟に対応していた。また耿長鎮は、耿の政治的威信に多大な物質的援助を

批評と紹介

加島

一九六〇年代末の村内基盤が比較的堅固であったことが挙げられる。一九六七年初頭、村内に急激な党派対立が生じた。このことを反映して耿長鎮は、耿の政治的威信をさらに伸ばすため、村政の実効性を高めることが求められた。この一時期に耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信をさらに伸ばすため、村政の実効性を高めることが求められた。この一時期に耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされ、耿の政治的威信が急速に伸ばされる
文化大革命から改革開放へ

九〇年代農村経済の動態

さらに本書で注目されるのは、文化大革命期から改革開放初期にかけての農村の経済的環境の変化が詳細に描かれている点である。本書は改革開放後の展開について、紅衛兵による混乱の時期（九〇年代末）、四人組逮捕以後（九〇年代末）、改革開放以後（九〇年代初頭）に分けて通時的に記述している。そこから印象づけられるのは、九〇年代初頭の改革を契機とした農村における産業の多様化と、それらの市場経済化への動きである。報告書は、周恩来の主導で集団副業や灌漑、農業機械化などを奨励するものであったが、革命派の抵抗や資金の不足などから必ずしも十分な成果を挙げられず、むしろ農村経済を圧迫する側面もあった。しかしながら、一部の積極的な村（生産大隊）や生産隊は、食糧生産に偏

### 図1 1960-1982年五公村（大隊）各生産隊の一人当たり収入額
（集団からの分配分）

<table>
<thead>
<tr>
<th>年</th>
<th>第1生産隊</th>
<th>第2生産隊</th>
<th>第3生産隊</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1960</td>
<td>100</td>
<td>150</td>
<td>200</td>
</tr>
<tr>
<td>1961</td>
<td>120</td>
<td>180</td>
<td>220</td>
</tr>
<tr>
<td>1962</td>
<td>140</td>
<td>200</td>
<td>240</td>
</tr>
<tr>
<td>1963</td>
<td>160</td>
<td>220</td>
<td>260</td>
</tr>
<tr>
<td>1964</td>
<td>180</td>
<td>240</td>
<td>280</td>
</tr>
<tr>
<td>1965</td>
<td>200</td>
<td>260</td>
<td>300</td>
</tr>
<tr>
<td>1966</td>
<td>220</td>
<td>280</td>
<td>320</td>
</tr>
<tr>
<td>1967</td>
<td>240</td>
<td>300</td>
<td>340</td>
</tr>
<tr>
<td>1968</td>
<td>260</td>
<td>320</td>
<td>360</td>
</tr>
<tr>
<td>1969</td>
<td>280</td>
<td>340</td>
<td>380</td>
</tr>
<tr>
<td>1970</td>
<td>300</td>
<td>360</td>
<td>400</td>
</tr>
<tr>
<td>1971</td>
<td>320</td>
<td>380</td>
<td>420</td>
</tr>
<tr>
<td>1972</td>
<td>340</td>
<td>400</td>
<td>440</td>
</tr>
<tr>
<td>1973</td>
<td>360</td>
<td>420</td>
<td>460</td>
</tr>
<tr>
<td>1974</td>
<td>380</td>
<td>440</td>
<td>480</td>
</tr>
<tr>
<td>1975</td>
<td>400</td>
<td>460</td>
<td>500</td>
</tr>
<tr>
<td>1976</td>
<td>420</td>
<td>480</td>
<td>520</td>
</tr>
<tr>
<td>1977</td>
<td>440</td>
<td>500</td>
<td>540</td>
</tr>
<tr>
<td>1978</td>
<td>460</td>
<td>520</td>
<td>560</td>
</tr>
<tr>
<td>1979</td>
<td>480</td>
<td>540</td>
<td>580</td>
</tr>
<tr>
<td>1980</td>
<td>500</td>
<td>560</td>
<td>600</td>
</tr>
<tr>
<td>1981</td>
<td>520</td>
<td>580</td>
<td>620</td>
</tr>
<tr>
<td>1982</td>
<td>540</td>
<td>600</td>
<td>640</td>
</tr>
</tbody>
</table>

*（出所）本書p.298。
*（注）数値は現物での収入分を含んでいる。
重した従来の政策からの転換に敏感に反応し、改革を自らの生存戦略のなかに組み込んだ。とりわけ示唆的なのが、五公社村における各生産隊の改革への対応の差異である。一九七〇年以降、改革の一環として養豚が奨励された際に、国家への食糧販売ノルマ達成を重んじる政策長官が親和的な第一、第二生産隊を積極的に養豚を取入れ金融収入を得た（）。その後も第二生産隊は積極的に養豚のための資金を調達し、紙ピット工場などを設置し、養豚が熱調りを莫大な資金調達を伴うことを模索した（）。その結果、一九七八年までに五公社村の全生産隊が養豚を始め、経済的損失を免れた（）。これにより、従来の種畜の購入や育成にかかった費用をかけずに、養豚が可能になった（）。

一方で、改革期におけるリンクス等の組み立てを含めた新たな経済活動が有効に機能したといえる。一九八〇年代の改革は、個々の経済政策が互いに有機的に機能したといえる。従来の硬直した統制経済に一定の自由な経済活動の余地をもたらすことで農村経済の活力を刺激した側面が強かったと言える。この点は一九六〇年代初頭の改革においても同様であり、市場経済化への下からの圧力は計画経済期において常に存在しつづけていたのである。

批評と紹介

加島

改革開放とモデル村

また、改革開放の貴重な事実は、モデル村の位置づけの変化を重要視する点である。表1は五公社村内各生産隊（生産大隊）の一人当たり収入の推移を示しているが、これによると、一九八一年一九九一年の一人当たり収入（集団分配分）において五公社が、他村を大きく上回っていたことがわかる。これは五公社が、モデル村を含む集団的な経済活動を通じて、他村を大きく上回っていたことがわかる。これは五公社が、モデル村を含む集団的な経済活動を通じて、他村を大きく上回っていたことがわかる。これは五公社が、モデル村を含む集団的な経済活動を通じて、他村を大きく上回っていたことがわかる。これは五公社が、モデル村を含む集団的な経済活動を通じて、他村を大きく上回っていたことがわかる。これは五公社が、モデル村を含む集団的な経済活動を通じて、他村を大きく上回っていたことがわかる。これは五公社が、モデル村を含む集団的な経済活動を通じて、他村を大きく上回っていたことがわかる。これは五公社が、モデル村を含む集団的な経済活動を通じて、他村を大きく上回っていたことがわかる。これは五公社が、モデル村を含む集団的な経済活動を通じて、他村を大きく上回っていたことがわかる。これは五公社が、モデル村を含む集団的な経済活動を通じて、他村を大きく上回っていたことがわかる。これは五公社が、モデル村を含む集団的な経済活動を通じて、他村を大きく上回っていたことがわかる。
### 表1 1964-1982年の五公公社内の各村（大隊）の一人当たり収入

<table>
<thead>
<tr>
<th>村（大隊）名</th>
<th>1978年人口</th>
<th>一人当たり収入（集団分配分）</th>
<th>一人当たり総収入（家族収入を含む）</th>
</tr>
</thead>
</table>

（出所）本書 pp. 251, 299。

（注）本書 p. 238の表の注より、数値は現物分配分を含むものとみられる。
AGRAM STUDIES SERIES, NEW HAVEN: YALE UNIVERSITY PRESS,
Revolution, Resistance, and Reform in Village China, Yale
Edward Friedman, Paul C. Pickowicz, Mark Selden,

(书) (书)

(书)